

航空機エンジンに投資

来年末

SMFLリース資産残高4割増

三井住友ファイナンス&リース(SMFL)は、航空機エンジンのリース事業に積極投資する。2022年末に同エンジンのリース資産残高を現在比約4割増の10億ドル(1100億円)に引き上げる。保有エンジン数量は同1割増の約80基にする。エアラインが資金化などのために保有エンジンを売却する流れがある一方、航空需要は3〜4年後にコロナ禍前を回復すると予想される。同社は優良資産を買い入れ、市場の回復に備える。

コロナ後回復に備え

三井住友ファイナンス&リース(SMFL)はエンジン購入の調達の資金調達に、同

ための資金調達に、同事業では最大規模の融資を受ける。国際協力銀行、三井住友銀行の2行と協調融資を新たに契約し、22年末まで

SAELはスペアエンジンを約10基購入する計画だ。

購入対象はナローボディ機(単通路機)

用で燃費効率の高いものに絞る。エアラインが保有するエンジンや、メーカーに発注した新造エンジンを買入れ、エアラインにリ

ースするセル&リースバックなどを実行していく。20年の航空需要はコ

口ナ禍で以前の3分の1に縮小したとされるが、足元では近距離線分で持ち直し傾向にある。

IATA(国際航空運送協会)の調べによると、21年4月の世界の国内線は有償旅客キロ(RPK)が19年同月比25・7%減で3月の同31・6%減から改善した。